

新年賀謹



多古町長
菅澤 英毅

輝かしい新春を迎え、謹んでごあいさつ申し上げます。

2014年を振り返ってみますと、男子フィギュアスケートで羽生選手の金メダル獲得に日本中が沸いた第22回冬季オリンピックの開催から始まった年でありました。また、同じスポーツ界では男子テニスにおける錦織選手の活躍はみなさまの記憶に新しいことでしょう。

政治経済界においては、デフレからの脱却や日本経済の再生をめざす第2次安倍政権のもとですすめられた「アベノミクス」政策や、増大する社会保障費を賄うための消費増税など大きな動きがあり、年末には政策の是非を問う衆議院総選挙が行われ、与党が勝利を収める結果となりました。

このような中、私たちの多古町では昭和の大合併を経て現在の姿となつてから60周年を無事迎えることができました。これもひとえに町民の皆様方の町行政に対するご理解とご協力によるものと改めて厚く感謝申し上げます。

新しい時代に向けて動き出した多古台では、先進的な幼児教育や子育てを支援するための施設として多古こども園が4月からスタートしました。また、念願でもありました住宅開発が具現化し、恵まれた環境のもと住宅建設が順調に進み新しいまちが誕生しようとしています。

さらに、こども園の隣接地にはJRバス関東の新店とバスターミナルの建設も始まり、多古台から東京駅への高速バス路線の運行も決定し、公共交通の充実が図られるほか、商業施設の進出も予定されているなど、多古台はこれからの多古町の発展を担う中心として大きく期待されます。

さて、国の地方自治体への動向に目を向けてみますと、国主導的な地方自治から、地方による自主的で自立した自治への転換が求められていることは、みなさまもご承知のことと存じます。先般成立した地方の創生に関する法律によると、地域が抱える課題を再認識し、行政と住民が一体となつてこれまで培ってきた知恵と経験を生かし、自らが地域を改革し、創り、活性化していくとする自治体に対して、国は財政的にも制度的にも積極的に支援することとしています。

このことを踏まえて、町民一人ひとりが夢や希望を持ち豊かな生活を安心して持てるような地方創生戦略の推進に努めてまいります。

また、これからの多古町では、成田国際空港の東側に位置する地の利を生かし、空港を核として潤いのあるまちづくりを実現するための指針である「多古町成田空港東側地域戦略構想」を基本として、将来にわたって持続可能な農業政策・観光資源の活性化・都市基盤の整備など様々な分野での取り組みを進めると共に、今年の春から地区ごとに順次用地補償についての説明会が開催されていく予定である首都圏中央連絡自動車道の多古町エリアや、空港へのアクセスを強化する周辺道路網の整備といった積極的な土地利用を促進していくことが重要だと考えております。

2015年は、先人たちが築き上げてきた長い歴史に、新たな1ページを刻む出発の年であります。「人・歴史・文化 みんなでつくる潤いのまち多古」を将来像に掲げ、そこに向かう過程をわかりやすく発信しながら町民のみならずと協働のもと、夢と希望を実現するためにこれからも尽力してまいります。